

都政問題の第一人者が集い語る

「グローバル経済と新自由主義下の東京問題を考えるシンポジウム」

— 東京問題研究の諸成果を素材にして —

2007年4月の都知事選で、石原知事が当選し、第3期石原都政が始まりました。石原都政は、教育の新自由主義化や、さまざまな新自由主義管理手法の導入などの諸点で日本の新自由主義改革の先頭を切り、新自由主義のモデルとなっているばかりか、新自由主義の都市間競争でも先頭を走っています。こうした東京の新自由主義にストップをかけなければなりません。

残念ながら、先の都知事選においてもこうした石原都政の本質を明らかにして、新自由主義都政を転換することはできませんでしたが、都知事選を前後して、東京都政を批判的に検討し、それを転換する政策的な対抗を探ったいくつかの作業が成果となって現れました。

そこで、第3期石原都政を批判的に検討し、ポスト石原都政も視野に入れて、これらの諸成果を総括的に検討するシンポジウムを下記の要領で持ちたいと考えました。題名は「グローバル経済と新自由主義下の東京問題を考える…東京問題研究の諸成果を素材にして」です。是非ご参加ください。

ご案内

- 日時 10月20日（土）午後2時～6時半
- 場所 文京区民センター3F
地下鉄 三田線「春日駅」A2出口すぐ
丸の内線「後樂園駅」徒歩3分
JR総武線「水道橋駅北口」徒歩10分
- 参加費 1000円（資料代含む）

呼びかけ人 柴田 徳衛（東京経済大学名誉教授）
渡辺 治（一橋大学教授）

魅力あふれる内容—プログラムの概要

- コーディネーター 渡辺 治
- 第一部 東京研究の現局面—問題提起
五十嵐敬喜（法政大学教授）
進藤 兵（都留文科大学教授）
- 第二部 検討対象作品の代表者からのリプライと討論
安達智則（東京自治問題研究所）
氏家祥夫（元東京都庁職員労働組合委員長）
武居秀樹（都留文科大学助教授）
- 第三部 これからの東京研究と対抗政策づくりに向けて
柴田徳衛